

Wellness

第37期 事業報告書

平成11年4月1日から平成12年3月31日まで



SUNDRUG

株主メモ

決算期日	3月31日(年1回)
定時株主総会	毎年6月中
基準日	毎年3月31日 その他必要があるときはあらかじめ公告のうえ設定いたします。
名義書換代理人	東京都千代田区丸の内一丁目6番2号 第一勧業富士信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目6番2号 第一勧業富士信託銀行株式会社 本店証券代行部
お問合せ先	〒135-8722 東京都江東区佐賀一丁目17番7号 第一勧業富士信託銀行株式会社 証券代行部 電話(03)3642-4004(大代表)
同取次所	第一勧業富士信託銀行株式会社 全国各支店 安田信託銀行株式会社 本店および全国各支店
公告掲載紙	日本経済新聞

株式会社 サンドラッグ

〒183-0005 東京都府中市若松町一丁目38番地の1

株式会社 **サンドラッグ**

株主の皆様へ

ウェルネス提案企業の成長はこれからです



代表取締役社長
才津 達郎

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼を申し上げます。

第37期事業報告書をお届けするにあたりまして、一言ご挨拶申し上げます。「すべてはお客様のためにある。」サンドラッグの経営戦略のすべては、そこから発想されています。「いつも健康で生き生きと暮らすこと。いつまでも若々しく美しく生きること。」時代の変化とともに生活スタイルがいくら多様化しても人々のこの変わらぬ願いを実現するために、サンドラッグは創業以来「信頼・安心・便利」をモットーとした店舗づくりにつとめてまいりました。

「信頼」とは、親切で適切な商品説明や扱い商品の処方や品質に対する信頼性のこと。「安心」とは、この店で買うものなら安全だ、また価格の面でも安心して買物ができると思っただけのこと。「便利」とは、優れた品揃え・アクセスのよい立地・入りやすい駐車場・長い営業時間など、欲しい商品が欲しいときに手に入れられる店舗づくりがされていることです。

日本経済を襲う景気の低迷、流通業界では代表的なビッグストアの売上高が未曾有の前年割れ更新を続け、ドラッグストア業界においては規制緩和、異業種からの参入、大手企業でも合併・提携が進むなど、淘汰の時代が訪れようとしています。

そのような状況下で勝ち残るためには、お客様が私たちドラッグストアに望んでおられる前述の経営理念に基づいて社業を推し進めていくことだと確信しております。

あらゆるシステムづくりの根幹となる人材教育システムの充実、業務の効率化を実現する様々な情報システムの開発、物流システムの構築などにより、高いサービスレベルを維持したままコストを下げしていく。私たちはこのような強固な経営基盤を確立させたうえで事業を拡大していく経営方針を堅持し、今後も引き続き増収増益を目指してまいります。

当面の目標であった「2001年度200店舗売上高1,000億円、首都圏シェア10%。」の達成は目前に迫ってまいりました。サンドラッグは準備・助走期間を経て、さらに業界トップの座も視野に入れ飛躍してまいります。

株主の皆様におかれましては引き続きご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

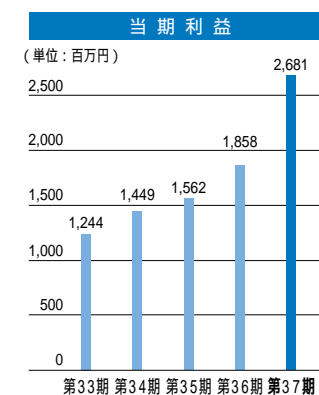
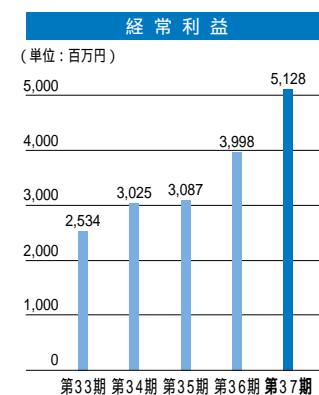
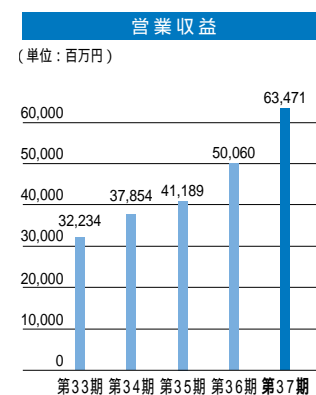
平成12年6月

財務ハイライト

(単位:百万円)

	第33期 (7/4~8/3)	第34期 (8/4~9/3)	第35期 (9/4~10/3)	第36期 (10/4~11/3)	第37期 (11/4~12/3)
営業収益	32,234	37,854	41,189	50,060	63,471
経常利益	2,534	3,025	3,087	3,998	5,128
当期利益	1,244	1,449	1,562	1,858	2,681
総資産	21,695	27,803	29,262	32,376	36,317
純資産	16,116	20,047	21,399	22,871	25,362
1株当たり当期利益(円)	114.92	103.60	93.07	110.68	159.66
1株当たり純資産(円)	1,488.47	1,432.67	1,274.43	1,362.12	1,510.47
株主資本当期利益率(ROE)(%)	8.0	8.0	7.5	8.4	11.1
使用総資本経常利益率(ROA)(%)	12.3	12.2	10.8	12.9	14.9

(注) 1. 1株当たり当期利益は、期末発行済株式総数により算出しております。
2. 従来、営業収益の欄は売上高を記載しておりましたが、第36期より売上高にその他営業収入を合算して、営業収益を記載しております。



(注) 営業収益につきましては、第36期より売上高にその他営業収入を合算して記載しております。

事業紹介

多角的手腕で一気に業界トップへ

事業ダイジェスト

当社では、収益性、財務安定性など効率重視の経営を堅持しております。それを支える独自の各システムは、会社設立当初から積み重ねてきた試行錯誤のたまものです。大型ドラッグストアの出店や販売価格の規制緩和などの一見追い風に見える市場拡大も、競争力が伴っていないければ、逆に淘汰される要因になってしまいます。当社は、良い品を安く提供させていただくのは大前提、プラス、お客様により健康への意識を高めていただくことを企業理念の中心に据えています。その使命を遂行するために、情報システムの積極的な導入、販売力をアップさせるための細やかな人材教育、新業態店の開発等と、様々な新規改善を行っています。

スーパードラッグストア



医薬品・化粧品から医療機器、文具、生活消耗雑貨まで幅広い品揃えで現代クルマ社会のワンストップショッピングのニーズに応えた郊外型大型店舗です。業界でもいち早く実験店をオープンし、そこで培われたノウハウで独自の収益構造を確立しています。近い将来には大幅な店舗増加を見込むなど、今後の出店の中心となる事業です。また面分業時代への対応から、かかりつけ薬局のスペースを予め設けています。

クスリのサンドラッグ



家庭の健康管理者である主婦をターゲットに、駅前や商店街、住宅密集地に立地する店舗です。生活消耗品はもちろん、医薬品を中心に健康関連商品を幅広く揃えています。また、適切なカウンセリングを提供することによってお客様のセルフメディケーションをサポートしています。面分業時代に応え、かかりつけ調剤薬局が併設される場合もあります。

総合健康ストア



今期から実験店として出店を予定している新業態店です。地域生活者の身近な健康管理を担う店舗として、「健康に関するモノが何でも揃う」をコンセプトにした、「美と健康」の総合ストアです。症状や目的別陳列など、医薬品・化粧品の購入をさらに判りやすくするだけでなく、面分業時代に備えかかりつけ調剤薬局を常設します。5年後、郊外でも他社との競合が本格化したときを見据え、まず経営ノウハウの確立を目指します。

P B (プライベートブランド) 商品



毎日お客様に接する現場薬剤師のアイデアを元に、本部、開発担当者がメーカーとタイアップして商品を開発しています。現在、医薬品・化粧品を中心に開発実績は70アイテム以上あり、リーズナブルな価格設定と商品力の高さで、ますます需要が高まっています。また対面販売になるため、現場社員のスキルアップ向上を目的に、毎月一回、8時間の研修を実施しています。

カウンセリング・サポートシステム



サンドラッグが独自に開発したセルフメディケーション推奨システムです。お客様がパソコン画面に表示される選択肢を症状に応じて選んでいくだけで、適切な医薬品が簡単に購入できます。選択肢は17万パターン、登録商品も常時3000種類に及び、特に皮膚病や便秘など、直接店員に相談しにくい症状への対応として大好評いただいています。

インスタ・マーチャндаイジング・コントロールシステム



本部と直営全店舗を可動式ビデオカメラとコードレスホンで直結させ、商品陳列方法などを本部から遠隔指導するシステムです。指導員を頻繁に派遣する代わりに、リアルタイムの遠隔コミュニケーションを取ることで、効率的な販売機会を見計らうことが可能となり、商品回転率の引き上げに成功しました。また、従業員の接客態度も直接評価できるので、サンドラッグ全店のサービスレベル向上に威力を発揮しています。

調剤薬局



グループ調剤チェーンを展開しており、最新のOA機器導入による独自の調剤システムを確立しています。処方チェック、投薬管理などの個人情報に対しても万全の管理体制を実現しています。サンドラッグの薬剤師社員の調剤教育の場としても活用されています。

F C (フランチャイズ) 店舗



サンドラッグが100%商品を提供、経営システム面でも効率的な経営をサポートします。既に首都圏、北海道でフランチャイズ店をオープンしており、今後はまだ大手チェーン店が進出していない地域での展開も目指します。首都圏でのシェア10%を確保するとともに、それ以外の地方ではフランチャイズ店舗を増やすことで、全国的なドラッグストアとして事業展開を行ってまいります。

自社物流センター



国立と柏に、いずれも業界最大級の規模・システムを誇る物流センターがあります。加えて、より高い効率的出庫配送を実現するため、'99年に在庫専用のセンターを所沢に設置しました。既存物流センターの在庫保管を一ヶ所に集約することによって、物流コストの大幅削減と今後の大量出店の体制作りが可能になりました。

新本社



'98年に竣工、最新のネットワーク環境にも対応した5階建てのインテリジェントビルで、今後の当社の企業成長を担うプレセントセンターです。また、1Fにモデル店舗スペースを確保するなど、流通企業の本社ビルに相応しい活用も行っています。

貸借対照表(要旨)

(単位：千円)

科 目	第37期 (平成12年3月31日現在)	第36期 (平成11年3月31日現在)
資 産 の 部		
流動資産	13,238,591	10,922,079
現金及び預金	5,022,217	3,710,728
売掛金	656,218	594,522
棚卸資産	6,064,776	4,584,589
その他	1,495,375	2,032,235
固定資産	23,078,644	21,454,892
有形固定資産	11,140,724	10,238,772
無形固定資産	3,532,952	3,302,727
投資等	8,404,967	7,913,392
資産合計	36,317,235	32,376,972
負 債 の 部		
流動負債	9,945,458	8,339,113
固定負債	1,008,798	1,166,013
負債合計	10,954,256	9,505,126
資 本 の 部		
資本金	3,931,200	3,931,200
法定準備金	7,572,048	7,531,157
剰余金	13,859,729	11,409,487
資本合計	25,362,978	22,871,845
負債及び資本合計	36,317,235	32,376,972

損益計算書(要旨)

(単位：千円)

科 目	第37期 (平成11年4月1日から平成12年3月31日まで)	第36期 (平成10年4月1日から平成11年3月31日まで)
経常損益の部		
営業損益の部		
営業収益	63,471,519	50,060,223
営業費用	58,457,662	46,183,455
営業利益	5,013,856	3,876,767
営業外損益の部		
営業外収益	168,590	159,809
営業外費用	54,050	37,723
経常利益	5,128,396	3,998,853
特別損益の部		
特別利益	41,924	2,712
特別損失	184,130	28,742
税引前当期利益	4,986,190	3,972,824
法人税、住民税及び事業税	2,387,413	2,114,404
法人税等調整額	82,264	
当期利益	2,681,040	1,858,419
前期繰越利益	94,648	39,430
過年度税効果調整額	218,743	
中間配当額	167,911	125,783
中間配当に伴う利益準備金積立額	16,791	12,578
当期末処分利益	2,809,729	1,759,487

利益処分

(単位：円)

科 目	第37期	
当期末処分利益	2,809,729,747	
これを次のとおり処分いたします。		
利益処分額		
利益準備金	37,800,000	
利益配当金	335,824,020	
(1株につき普通配当20円00銭)		
取締役賞与金	42,000,000	
別途積立金	2,200,000,000	2,615,624,020
次期繰越利益		194,105,727

(注)平成11年12月15日に167,911,850円(1株につき10円00銭)の中間配当を実施いたしました。

連結貸借対照表(要旨)

(単位：千円)

科 目	第37期 (平成12年3月31日現在)	第36期 (平成11年3月31日現在)
資 産 の 部		
流動資産	13,498,877	11,107,560
固定資産	22,681,311	21,117,208
有形固定資産	11,352,058	10,458,668
無形固定資産	3,639,365	3,496,856
投資	7,689,887	7,161,683
資産合計	36,180,188	32,224,769
負 債 の 部		
流動負債	10,067,649	8,425,592
固定負債	1,017,717	1,177,704
負債合計	11,085,366	9,603,297
資 本 の 部		
資本金	3,931,200	3,931,200
本準備金	7,409,200	7,409,220
連結剰余金	13,755,014	11,281,509
自己株式	612	457
資本合計	25,094,821	22,621,471
負債及び資本合計	36,180,188	32,224,769

連結損益計算書(要旨)

(単位：千円)

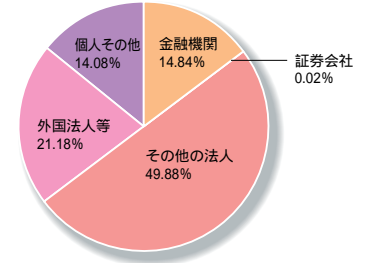
科 目	第37期 (平成11年4月1日から平成12年3月31日まで)	第36期 (平成10年4月1日から平成11年3月31日まで)
経常損益の部		
営業損益の部		
売上高	64,233,284	50,758,036
売上原価	48,548,336	38,352,482
販売費及び一般管理費	10,684,955	8,574,399
営業利益	4,999,992	3,831,155
営業外損益の部		
営業外収益	158,604	151,827
営業外費用	54,341	38,572
経常利益	5,104,255	3,944,409
特別損益の部		
特別利益	41,924	2,712
特別損失	184,933	28,742
税金等調整前当期純利益	4,961,246	3,918,380
法人税、住民税及び事業税	2,404,180	2,115,666
法人税等調整額	68,019	-
当期純利益	2,625,086	1,802,713

株式の状況(平成12年3月31日)

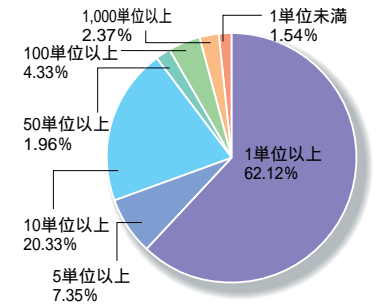
- ① 会社が発行する株式の総数 67,000,000株
- ② 発行済株式の総数 16,791,398株
- ③ 株主数 1,227名
- ④ 大株主

株 主 名	当社への出資状況		当社の大株主への出資状況	
	持株数	持株比率	持株数	持株比率
有限会社已立商事	7,907,867 株	47.09 %	- 株	- %
多田幸正	636,520	3.79	-	-
ステートストリートバンク アンドトラストカンパニー	598,000	3.56	-	-
多田直樹	466,560	2.78	-	-
ザ チェース マンハッタン バンク エヌエイ ロンドン	461,700	2.75	-	-
三菱信託銀行株式会社	374,200	2.23	-	-
ビービーエイチパトナムインター ナショナルポイジャーファンド	326,900	1.95	-	-
多田高志	311,040	1.85	-	-
ゴールドマン・サックス・ インターナショナル	275,800	1.64	-	-
多田文子	248,166	1.48	-	-

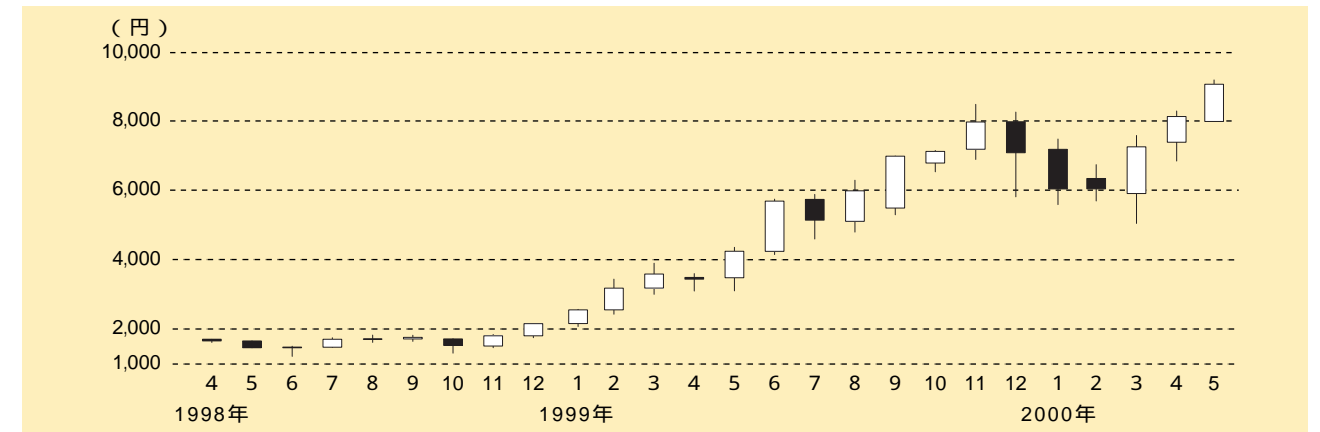
所有者別株式数分布状況



所有株数別株式数分布状況



株価の推移



会社概要 (平成12年3月31日現在)

商号	株式会社 サンドラッグ (SUNDRUG CO.,LTD.)
本社	東京都府中市若松町一丁目38番地の1
設立	昭和40年4月
資本金	3,931,200千円
従業員数	男性543名 女性236名 合計779名
店舗数	東京都65店 埼玉県24店 神奈川県15店 山梨県6店 千葉県3店 静岡県2店 フランチャイズ店22店 合計137店
子会社	株式会社 タイセーホームエイド 株式会社 コミネ
主要取引銀行	株式会社第一勧業銀行 株式会社住友銀行 安田信託銀行株式会社 株式会社あさひ銀行 株式会社横浜銀行
事業内容	薬局・美容室の経営ならびに医薬品・化粧品・日用雑貨等の販売および卸売業

役員 (平成12年6月17日現在)

代表取締役社長	才津達郎
取締役(店舗開発担当)	山室順一
取締役(営業本部長)	堀内克巳
取締役(管理本部長・システム企画室長)	多田英二
取締役(営業部長)	鶴田一広
常勤監査役	池田進宏
監査役	尾島穰
監査役	平谷敬一郎

(注)常勤監査役 池田進宏、監査役 尾島 穰および監査役 平谷敬一郎は、「株式会社の監査等に関する商法の特例に関する法律」第18条第1項に定める社外監査役であります。

株主優待のお知らせ

当社では、毎年3月31日現在の株主名簿及び実質株主名簿に記載された100株以上ご所有の株主の皆様に対しまして、当社のプライベート・ブランドのヘア・ケアセット(5,040円相当)を進呈いたします。



SUNDRUG 新店舗紹介

元住吉店 (駅前型)

住所
神奈川県川崎市中原区木月532
TEL
044-433-5026

平成11年12月オープン



川口青木店 (郊外型)

住所
埼玉県川口市青木3-25-1
TEL
048-254-3261

平成11年7月オープン



河口湖赤坂店 (郊外型)

住所
山梨県南都留郡河口湖町
船津字地藏丸尾5165-2
TEL
0555-24-5751

